

会員各位

岐阜県病院薬剤師会
会長 遠藤 秀治

第 281 回岐阜県病院薬剤師会研修会開催のご案内

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。
さて、下記のとおり研修会を開催しますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。

敬具

記

日時：平成 25 年 12 月 14 日（土）午後 2 時 30 分より
場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室
岐阜市長良福光 2695 - 2 Tel (058) 296 - 1200

【内容】 総合司会 坂下病院 薬剤部 西尾 晃

1、 会長挨拶

「薬剤師を取り巻く最近の動き」

岐阜県病院薬剤師会会長 遠藤 秀治

2、 会員報告

1. 「 岐阜赤十字病院における NST 活動への薬剤師の関わりと課題 」
岐阜赤十字病院 薬剤部 石原 祥史 先生
2. 「 回復期リハビリテーション病棟における内服自己管理に対する
常駐薬剤師の取り組み 」
徳洲会大垣徳洲会病院 薬局 松崎 奈津子 先生

参加費：薬剤師会会員 500 円 非会員 2000 円

* 当研修会は岐阜県病院薬剤師会研修制度及び日本薬剤師研修センター研修制度に該当する研修会です。

主催 岐阜県病院薬剤師会

当院における NST 活動への薬剤師の関わりと課題

石原祥史¹、大澤啓子¹、木村繁和¹、林貴子¹、山本希美重²、高橋裕司³、林晴美¹

1.岐阜赤十字病院 薬剤部 2.岐阜赤十字病院 栄養課 3.岐阜赤十字病院 内視鏡科

岐阜赤十字病院（以下当院）は許可病床数 311 床・平均在院日数 14.4 日の急性期病院として、岐阜市北部の地域医療を担っている地域支援病院である。今回は、当院の NST 活動の現状と、その中での薬剤師の関わりと課題について報告する。

当院における NST 活動は、2007 年に摂食・嚥下機能に対する介入から開始し、2010 年には言語聴覚士を加える等、チームメンバーの増員を行い、活動の規模を拡大している。それに伴い、薬剤師も活動当初は 1 名だけであったが、現在は 2 名参加となっている。

薬剤師が関わる活動は、週 1 回のコアメンバーによるミーティングおよびラウンドと月 1 回のリンクナースを含めた全体ミーティングへの参加を通じて、簡易懸濁法における薬剤別の相談や栄養状態改善のための輸液の処方設計依頼にも積極的に対応することで、栄養療法を適正化することに貢献している。

更に、NST が月 1 回定期的に開催している院内勉強会の内容についても企画の段階から積極的に参加しており、職員に対する NST 活動の重要性への理解を深めてもらっている。現在までに「栄養管理と輸液」や「簡易懸濁法の実践」等で薬剤師が企画と講義を担当してきた。

現状の課題としては、下記のような点が挙げられる。

①輸液設計の依頼に個別で対応しているため、限定的な介入になっており、依頼方法のシステム化を構築する必要がある。

②病棟担当薬剤師と連携して輸液設計を試みているが、知識や技能として伝えることが十分に出来ていない。

③長期実務実習の学生への教育も試みているが、大学教育課程で十分な教育が行われているといえないため、負担を感じている。

これらの課題に対して本シンポジウムで活発な意見交換を行い、今後の業務改善の参考にしたい。

（本発表は日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2013 のシンポジウム 3 「NST 薬剤師に期待されるファーマシューティカルケア」において発表した内容である。）

回復期リハビリテーション病棟における内服自己管理に対する常駐薬剤師の取り組み

¹医療法人徳洲会 大垣徳洲会病院 薬局

○堀浩子¹、松崎奈津子¹、細野真吾¹、河村千晶¹、山崎崇¹

【目的】回復期リハビリテーション（以下、リハ）病棟は患者の ADL 能力の向上および在宅復帰を目標としており、これには退院後の良好な服薬コンプライアンスが不可欠であるため、回復期リハ病棟における薬剤師の介入の意義は大きいと考えられる。当院は 2012 年 9 月に回復期リハ病棟の運用を開始した。当院においても在宅復帰に向けて患者の自己管理の必要性に伴い服薬支援を行った。しかし、病棟運用開始直後は医療従事者個々の判断で自己管理を導入したために、多職種連携がなく患者の高次脳機能障害や麻痺の程度の把握ができていなかったことによる問題が生じた。これを改善するために、薬剤師が中心となって内服自己管理介入フローシート（以下、フローシート）を作成・運用したことにより円滑で安全な自己管理導入が可能となったので報告する。

【方法】対象は 2012 年 9 月以降に当院回復期リハ病棟に入院し、2013 年 8 月までに退院した患者 95 名とした。調査項目として、認知機能障害やハイリスク薬の有無等、脳血管障害を有する患者については高次脳機能障害や上肢麻痺の有無等を調査し、個々の項目が自己管理の可・不可に影響を及ぼしたか検討した。また、フローシート運用開始前後の自己管理率や医療従事者の負担の増減等を調査した。

【結果】認知機能障害は自己管理の可・不可に影響を与えたが、上肢麻痺は影響を与えなかった。飲み間違い等の事故は増加することなく自己管理率が上昇し、医療従事者全体としては配薬・与薬に要する時間は減少したことにより、フローシートの有用性が示された。【

考察】今回作成したフローシートにより常駐薬剤師を含めた多職種が各々の専門性を生かして患者の機能障害を正確に把握することができたので、円滑で安全な自己管理導入が可能となり、退院までに多くの患者が自己管理可能となった。このことは、退院後の服薬コンプライアンスを向上させ、患者の QOL の向上に寄与できたと思われる。今後も内服自己管理支援活動を継続し、一人でも多くの患者の在宅復帰を可能にできるよう努力していきたい。

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日時：平成 25 年 12 月 14 日（土）午後 4 時より

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 TEL (058) 296—1200

■製品紹介

『Meiji Seika ファルマの抗 MRSA 治療薬』

Meiji Seika ファルマ(株) 学術担当

■特別講演

座長 岐阜市民病院 薬剤部長 後藤 千寿 先生

『感染制御活動における薬剤師の役割と課題』

東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部 主査

北村 正樹 先生

共催 岐阜県病院薬剤師会
Meiji Seika ファルマ(株)

感染制御活動における薬剤師の役割と課題

ここ数年、感染制御における薬剤師の活動が注目されてきている。これは、日頃から薬物治療モニタリング（therapeutic drug monitoring: TDM）などにより個々の患者の治療計画に積極的に参画するようになってきたことなどが挙げられる。

感染制御活動における薬剤師に対しては日本病院薬剤師会が 2005 年にスタートさせた感染制御専門薬剤師制度による認定制度がある。この制度は、2008 年度から指導・研究も併せて行う感染制御専門薬剤師（board certified infection control pharmacy specialist: BCICPS）と感染制御認定薬剤師（board certified pharmacist in infection control: BCPIC）の 2 本立ての構成となり、人材育成に充実を図ってきた。これらの専門・認定薬剤師の主な業務は、抗菌薬や消毒薬の使用状況の把握、適正使用の指導、TDM や消毒薬の抗微生物効果の評価、コンサルテーション・指導などであり、特に近年、抗菌薬の不適切な投与による多剤耐性菌の増加に対応できる薬剤師はチーム医療の中でも重要な存在・役割となっている。

今回、演者は自施設での感染制御活動について紹介し、さらに 3 年間にわたり日本病院薬剤師会学術小委員会での「感染制御活動における薬剤師の役割と貢献度」全国調査について得られた結果及び調査で判明した解決すべき問題点などを提示する。

東京慈恵会医科大学附属病院薬剤部

医薬品情報室

北村 正樹 (キタムラ マサキ)

1978年 東京薬科大学薬学部卒業

同年 東京慈恵会医科大学助手

1985年 東京慈恵会医科大学附属病院薬剤部勤務 (担当：医薬品情報)

現在に至る。

医学博士 (東京慈恵会医科大学)

インфекションコントロールドクター (日本感染症学会)

認定及び指導薬剤師 (日本医療薬学会)

認定薬剤師 (日本臨床薬理学会)

認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)

感染制御専門薬剤師 (日本病院薬剤師会)

抗菌化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)

日本環境感染学会評議員

日本病院薬剤師会学術第5小委員長

所属学会：日本医療薬学会、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会など